

氏名	樋口 裕二
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5463号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	A cross-sectional study of psychological distress, burnout, and the associated risk factors in hospital pharmacists in Japan (日本における病院薬剤師の心理的苦痛及び燃え尽きに関連する危険因子の横断調査)
論文審査委員	教授 土居弘幸 教授 荻野景規 教授 浜田 淳

学位論文内容の要旨

患者との対面コミュニケーションは医療の質に影響を与え、医療従事者にとって重要課題の一つである。日本の病院薬剤師もこの例外ではないが、一方で心理的負荷の原因となり得る。本研究では地域の病院薬剤師(n=823)を対象とし、心理的苦痛、燃え尽き、共感性疲労をそれぞれ一般健康調査票(GHQ-12)、専門職のQOLスクリーニング(Pro.QOL)下位尺度の燃え尽き(BO)、共感性疲労(CF/STS)によって評価し、関連する個人特性を自閉スペクトラム指数(AQ)、成人期のADHD自己記入式症状チェックリスト(ASRS)により評価した。完全な回答を380人(46.2%)から得た。有病率は、心理的苦痛(54.7%)、燃え尽き(49.2%)、共感性疲労(29.2%)であった。GHQ-12、Pro.QOL-BO、Pro.QOL-CF/STSはAQ及びASRSによって有意な(p<0.001, p<0.001)正の影響を受けた。病院薬剤師の心理的負荷について高い有病率が示され、自閉様特性やADHD様特性がこうしたリスクを増すことも示された。今後、燃え尽きから守るためにこうした特性に注目し、初期のリスク評価や新たな介入法を開発する必要がある。

論文審査結果の要旨

病院における医療従事者は、心理的負担の結果、燃え尽き症候群や共感性疲労を呈するが、薬剤師については知見が殆ど無く、こうした強い心理的負担に対する的確な対応策については、殆ど考慮されていない。

本研究によって、病院薬剤師の心理的負担の結果、高い有病率であることが明らかとなり、薬剤師自身の自閉様特性やADHD様特性が、燃え尽き症候群や共感性疲労のリスクを増すことも明らかとなった。しかしながら、病院という特殊な職場環境においては、地域住民や一般人を対象として開発された調査指標のみならず、専門職に相応しい調査項目についても検討する必要がある、今後の課題とされたい。

本研究は、先行研究が殆ど無い領域における先駆的な研究であり、病院薬剤師の心理的負担の現状、要因、対策の必要性が明示されたものである。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。